

広島県総合計画審議会第5回小委員会 議事録

- 1 日 時 令和6年11月15日（金）午後3時00分から4時30分まで
- 2 場 所 広島市中区基町10番52号
広島県庁北館2階 第2会議室及びweb
- 3 出席委員 伊藤委員長、石原委員（web）、上野由紀子委員、金澤委員、木下委員、
牛来委員、佐渡委員、日高委員、本多委員、山川委員
- 4 議 題 施策領域別フォローアップ
- 5 担当部署 広島県総務局経営企画チーム地方創生担当
電話：（082）513-2396（ダイヤルイン）

6 会議の内容（議事要旨）

【施策領域別フォローアップのまとめ】

事務局から、小委員会（フォローアップ）での意見要旨（事務局が骨子案を作成するに当たって、施策の方向等で考慮すべき意見）について説明

（委員長）

- ・ これまでの小委員会での発言が反映されてるかどうか、新規に付け加えることがないか御意見いただきたい。
- ・ また、すぐに反映されるものではないが、骨子案作成の段階で、意見のとりまとめ方法やビジョン見直しの整理の仕方、こういった視点の切り口が重要ではないかなど、御意見をいただきたい。

（委員）

- ・ 我々が議論してきたことを、ポイントを捉えてまとめていただいている。私自身の意見も十分反映されている。その上で、横断的な議論ということで発言させていただく。広島県が注力していくテーマを言語化されているものはあるのか。

（事務局）

- ・ 総合計画であるビジョンには注力するテーマというのは記載していない。ビジョンの目指す姿を実現するために17の施策領域ごとに目標を定めて取り組んでいる。
- ・ 計画の全体の建付けとして、10年間のビジョンの下に、実行計画として5年間のアクションプランがあり、さらに1年ごとに具体化したものとして、県政運営の基本方針を毎年度策定しており、ビジョンの目指す姿を実現していくために何に注力するのか、毎年そこで議論して策定している。今年度であれば、プロジェクトチームを立ち上げ、若者減少に特に注力して取り組んでいるところである。

(委員)

- ・ 広島県の住民として、生まれてから亡くなるまで、どういう生活を提供していくのか、していきたくないのか、それを言語化し、そのストーリーが施策横断の共有ビジョンになり得るのではないか。生まれて、幼稚園小中高でどういう教育を受けて、大学ではこうなれたら良くて、若手にはこういう価値を提供し、中堅ベテランになってシニアになって、広島県であればこんな人生をおくれるという、1人の人にフォーカスをし、そこにストーリーが生み出せないか、横断プロジェクトとして、広島らしさ、何かキーワードが出てくるのではないか。おそらく、それを実現しようと思うと重点項目が出てきて、それはすでに広島県が取り組んでいることかもしれないし、そういう観点があると良いのではないか。
- ・ なぜそれを申し上げているかという点、トータルで非常に悩ましいことが、例えば、広島県は、中高の教育が非常に充実していて、その観点からいけばグローバルに活躍できる人材を育成していきますと言っている。大学で外に出て行って欲しいわけではないが、いつ帰ってくることを県として求めていくのか。就職時なのか、1回目の転職時なのか、子育て期なのか。子育て期に決めるのであれば、県外に出た人同士の結婚を促進するみたいな話になる。一番理想とするライフラインを考えたときに、これまで議論してきたなかで、1回県外に出ていくことが是とされていて、いつ戻ってくるか、そこを深堀して大胆な施策を打っていくなど、一生の人生を見たときに、広島県が提供できるものが何か、そしてそれをストーリーにしたときに、ここがとても重要だというのが、最大3つぐらい、何か言語化されれば、一本線の通ったビジョンになっていくし、アクセルとブレーキを同時に踏むみたいなことにつながらなくて済むのではないか。
- ・ その中のキーワードに共育てがあると思っていて、共育てには、労働と子育てと生活が全部入っていて、それを細分化すると、例えば、労働においては男女の労働時間の差異が最も少ない県を目指すであるとか、子育てであれば、スポーツ県であるので、幼少期のころからスポーツ教育が圧倒的に他県より発達している県であるとか、生活の面では、地産地消を最も促進できている県であるとか、何かそういうキーワードが出てくるのではないか。

(委員)

- ・ 広島に生まれ育ち住み働いて良かったと心から思える広島県という基本理念であるが、ストーリーとして、施策がきちんとできてきたら、県民が安心して、誇りを持って挑戦していくということであるが、多分、県民にはわかりづらいのではないか。つながりがわかりづらい。どこがどうなると、何が安心して誇りが出てくるのだろうか。施策を貫く3つの視点として、DXの推進、人材育成、ブランドとあるが、どこの部分がどうなっているのだろうかわかりづらいと思っている。
- ・ 共育てというワードはどこかに入れるべきだと思う。また施策の連関をどう見える化して表現していくのかといったところを今後議論していきたい。

(事務局)

- ・ 現行ビジョンに、施策を連関させて相乗効果を発揮するという文言はあるが、うまく表現できていない部分について、骨子案を反映していく段階で皆様から意見をいただきながら、検討していきたい。

(委員長)

- ・ 住んで良かったと思える広島県、この発言の主体は人であるが、総称的な広島県人であって、顔が見えにくいというのはあり得ると思う。そのため、人々のライフサイクルに応じた施策体系というのは、県の場合には、事業範囲が広すぎるため、難しい面があるのかと思う。ただ、子育てや教育といったテーマについては、馴染みやすいライフサイクルの表現もあると思うので、意見を踏まえながら検討していただけたらと思う。

(委員)

- ・ 広島県で生まれて亡くなるまでのストーリーを描いたときに、教育について、学校教育だけで終わっているところがとても気になる。17の施策領域があるなかで、子供・子育て、教育とまとまっている。人生100年時代、マルチタスク、マルチステージという背景の中で、自ら豊かな暮らしを生み続けるには、学校教育卒業後も学び続ける、教育がそこでも機能していくこと。また、学校教育段階においても、不登校の子供が増えているなかで、学校教育で全て引き受けるのではなくて、学校以外でも引き受ける必要があり、学校教育はもちろんとても重要であるが、ビジョンの内容を学校教育だけにすると、相当数の県民が教育の対象から外れてしまうことになるのではないかと不安に思っている。世界的な潮流は、いわゆるフロントエンドモデル、教育が人生の前半で終わるというのは、もう終焉しつつあり、それがリカレントモデル、何度でも教育に戻ってこれるといふものに変わってきている。今の広島県のビジョンの書き方は、教育イコール学校教育段階までに見える。本当に県民がそれを望んでいるのか、あるいは望んでいるのだとしたら、その意識も少し変えていく必要がある。自らが学んで、つながりをつくり、イノベーションを起こすことが、自分が主体だという意識がなくなってしまう可能性がある。
- ・ 1人の人に焦点をあてたときに、どのようなストーリーなのか、顔が見える形にしたいと思う一方で、1つのモデルを出してしまうことの難しさがある。子供を育てながら仕事をするとするのは1つのモデルでしかないから、何か子供を持たないのも1つの選択肢で、仕事をしないことも1つの選択肢であるように、そこをどう表現できるのかなど議論が必要だと思う。

(委員)

- ・ 教育というのは基本的に未成年者、学卒で22歳までかもしれないが、そこを対象とするのが教育で、その後の人生では、学習や学びという言葉が使われていることが、国の政策でもほとんどで、学び、学び直し、学び続けるという言葉で、まさに人生100年時代は、大人になってからも学ぶ、大人になってからも自らを変えるように何か新しい知識、技能を獲得するという行動が、人生で続いていくことは何らかの形で発言したほうが良いと思う。広島県はリスキリングを推進しているが、これは働くことに特化しているが、学び直しの1つのあり方だと思う。若年者の教育は、どんな魅力的な教育環境があって、ここで子供が育つと、未来を自分で切り開ける力のある大人になっていけそうだと思うせられるような教育をどうするかといったことを議論したほうが良い。その上で、若年者の教育だけでなく、人生100年時代の、成人の学び続ける環境について、政策目標を入れるべきではないか。その時の言葉は教育ではなく、学び、学び直しという別の表現になるのではないか。

(委員)

- ・ イメージとしては、「欲張りライフ」を掲げていたと思うが、誰かを排除するような表現は良

くないと思っており、子育てしなきゃいけないというわけではないし、海外の大学に行かないといけないわけではない。それらを包摂するようなキーワード、例えば、誰もが、自分の夢を諦めないで生きていける広島県であるとか。それがどういうことかと考えたときに、例えばこんな人生を送れるとか、人生のライフステージに置き換えると、若い時、子育ての時にはこういう人生を送れるなど、総合する包摂するビジョンがあって、例えばこんなことが叶えられるというのを形で示していくことはできるのではないか。広島県の大学だけでなく、全国、全世界の大学に進学する県であることにみんなが誇りを持つとなると、立派なことであると思うが、それでも帰ってきてほしい。広島県が、何かしらの期待を持って、世界や全国に羽ばたいてもらう、そういう羽ばたく子たちにむしろ応援をして、帰ってきて学んできたことを、広島県に戻ってきて実践して欲しいから旅立たせる。それを良い意味で恩着せがましい、何か助成制度を導入することによってクリアになる。教育、スポーツ、県外流出をわけて考えると繋がっていかないと思う。小中、高校、大学、社会人1年目で、マクロで見たときに、どこにどういう人口帯同が起きることが、広島県として理想的なのか、そういう意味でのストーリーを議論していくと、横断的な施策の議論が進むのではないか。

(委員長)

- ・ 医学部の地域枠に少し似ていると感じた。

(委員)

- ・ 資料1について、文化とスポーツで、主要な意見がかなり絞って載っている。ただ後ろの方のページを見ていくと、これよりもさらに多様な意見があるので、このまとめ方で良いのか疑問に思う。この記載だけだと神楽だけに絞られているような表現になっているので、広く文化のことを扱って集約したほうが良いのではないか。

(委員)

- ・ トランプ政権になって、グローバル経済、潮目が変わってきている。何年も続くかわからないし、10年後全然違う世界が展開されているかもしれない。サステナビリティが、10年、20年で、世界中の最大の課題だと思われていて、そこにチャンスがあるのではないか。貿易に制限がかかる可能性があるなかで、国内の地産地消、自産自消が重要になるので、こうした動きは地方都市にはチャンスになるのではないか。幼少期から自然と触れ合い、体に良い地元の物を食べ、みんなが健康で、やりがいのある仕事や社会貢献の機会が溢れているということは、東京では絶対できないことだと思う。広島県は食物が育つ環境としては最高だと思っていて、社会的な潮流から、サステナビリティという観点で、人が食料に困ることがあり得る。生産者としての農業を守っていくことにもなるが、担い手が減っていくなかで農地を自産自消する人へ提供する支援や土の保全、自然農法など、早くから取り組むことで、必ず地域の魅力につながると思う。大きな目玉として入れていただきたい。

(委員長)

- ・ 今のビジョンに「欲張り」や「適散適集」という表現があるが、今の委員の意見も一定程度反映されてはいるが、これをさらにどう明確化するのかという趣旨だと思っている。

(委員)

- ・ 広島県の資源を守っていくという観点から、担い手が減っているなかで、維持するだけでなくで発展させていくということを、広島県として発信していく必要があると思う。

(委員長)

- ・ 街という表現があるが、市町村の町の方が良いのではないかな。

(委員)

- ・ 地区的なレベルもあり、広島菜など、そこをブランディングするイメージである。

(委員)

- ・ 街だと何の単位の話をしているのかわからないので、地域という表現が良いのではないかな。

(委員)

- ・ どうしても県が全領域、全方位に関してやっていることなので、県としてお金をかけないといけない話ばかりで、県として儲けの部分の話がなく、実現可能性が低いというのが、これまでの議論、自分の意見も含めて、感想としてある。暮らしやすさ、魅力のある都市を作るには、お金をかけて何かを整備すること、発信していくこと、何かに力を入れていくことばかりで、これらのことをやろうと思うと収入はどうするのか議論する必要があると思っているが、そこに関する政策はビジョンの中にほとんど入っていない。どんな産業がどんなふう to 発展し、そこが税金払ってくれるから広島県は豊かになり、だから住民のために色々なことができるというストーリーが必要ではないか。どんな企業を誘致できるのか、どんな産業クラスターを広島で興すのかといったビジョンがないと感じる。

(委員長)

- ・ 大きな目標としては、例えば、1人当たりの県民所得を伸ばすなど、そういった大きな目標はある。そのための、具体的な施策は個別の17領域で、それぞれは関係しているが、それを横串で一体的に進めることは、現時点の資料としては整理ができていないことだと思う。

(委員)

- ・ どんな産業が広島から羽ばたいて世界を相手に商売しようと思うみたいなことがビジョンに描かれているのか。所得を上げるために、その手段としての産業をどこから引っ張ってきて、どこで頑張って、どこが儲かると思っているのかなどがあるのか。そこに具体的な目標がなく良いのか。

(事務局)

- ・ 1つは観光であり、令和12年に観光消費額を8,000億円とすることを目指し、成長産業の1つとなるよう取り組んでいる。
- ・ また、産業イノベーションの領域では、例えば、医工連携、環境エネルギー産業を伸ばしていくため施策に取り組んでいる。イノベーションエコシステムの構築に向けて、スタートアップ支援も含めて、企業等の後押しをしている。

(委員)

- ・ 他県はやっていなくて、広島でしかやっていない施策がなければ何の意味もないと思っている。観光、農業、教育もそうであるが、同じことをどこの県も言っている。広島にはこういう基盤があるからできる、広島にはそもそもこういう良さがあるからこの産業にふさわしいであるとか、そういう理由のところまで高めないで広島に来ないし、何で広島が選ばれるのかわからない。魅力が、働く人も暮らしやすいということだけでは全然インパクトが弱い支出と収入があるなかで収入を増やす施策として観光を頑張る、というのは日本中すべての都道府県が言っていて、どこの都道府県でも言ってるのであれば、差別化が全くできてないのではないかな。

(事務局)

- ・ 委員御指摘のとおり、都道府県のビジョン単位でよく言われているのが、都道府県の名前を変えれば中身が一緒であると。理由としては、他の都道府県も同じだと思うが、ビジョンがあってその下に観光の計画や企業立地の計画がぶら下がっており、そこに色が出てくる感じになっている。ビジョンの中でも広島県らしさを出して、何とか違いを見出したいという思いは持っており、検討しているところである。

(委員長)

- ・ 個別の計画の特徴を総論的になりがちな総合計画にできる限り反映できるよう今後の課題であると思っている。

(委員)

- ・ どうやったら広島県が差別化され見える化できるのか考えているが、思い付くのは、「おいしい広島県」などのキャンペーンである。フラワーフェスティバルは今では博多どんたくに匹敵するくらい大きなイベントになっており、県民が何かをしようと思って動くことが一番大切ではないか。企業と県民が一緒になって何かできるのが一番良くて差別化されると思う。市民や町民がやっているのは、他にはないので。やっている人が楽しくなると、他の人も入ってきて、参加率、リピート率が上がる。ファクターが何かと考えたときに、楽しいことがまず第一で次に楽にできること、そして最後は音楽である。フラワーフェスティバルは音楽があり音楽を聴くと広島県民は思い出す。そのため、音楽とひっつけければ良いと思い、広島県独自の音楽があっても良いのではないかな。年ごとなのか知事ごとなのか、キャンペーンが必要なのではないかな。

(委員)

- ・ 他県のビジョンもいくつか見て、広島県は多岐にわたりきっちりと整理しているという印象だが、メリハリ、差別化という意味では県民には伝わりづらいのかもしれない。今回は見直しということで抜本的に変えるものではないが、ストーリーという意見があったように広島はこれだという特徴が何かあっても良いと感じている。
- ・ 平和について、日本の中の広島ではなくて世界の広島だと思っている、平和の部分の記載を少し追加する必要があるのではないかな。世界情勢が不安定な中、広島があるから抑止できているという強さ、どこかにそういう存在が必要であり、そういう意味では広島はすごいと感じている。

(委員)

- ・ 世界的に知名度が高いのは平和都市広島という側面で、世界の平和に関して、広島県は常にリーダーを輩出しているというのはビジョンとして必要だと思っている。県立大学に平和学部や平和研究科を作り、平和に関する法律、行政、科学、核の平和利用も含めた、地球の平和、世界の平和に関しては広島で研究する必要があるというブランドづくりは、他国、他の都市にはできないことであり、そういう意味では差別化できる要素だと思っている。

(委員)

- ・ グローバルレベルで認知されていることはとても大きな力だと思う。そこがあるから観光にもつながっていると思う。広島の国際社会での発信力、存在感を高めていくことが広島の活力にもつながる。そのことが全面で出ても良いと思っている。
- ・ 国際情勢の変化についても、サステナビリティが大事となって、しばらくの間は、それぞれの国家が、自国を優先するような分断的な時代がこの先10年ぐらい続くだろうと思っているが、そんななか、広島に外国の人に来てもらわなければいけない、または、その分断が高まる中でも広島の産業が国際的なマーケットの中で生き抜いていかなければならないという難しい時代になってくる。地域の皆さんがこの国際情勢についての感覚を持ちながら過ごしていくような街である必要があると思っている。広島が国際社会の動きについて非常に感度の高い街であるということは大きめの色として出しても良いと思っている。

(委員)

- ・ 広島らしさとして平和というのは同感である。平和のために、平和のための活動が何かしらお金に変わるようなことも必要であるのではないか。世界から戦争がなくなるという平和だけではなくて、環境、ジェンダーなど、平和を広義な意味で捉えていて、広島がSDGsも含め、1つのテーマとして平和に取り組んでいく必要があると思う。

(委員長)

- ・ 平和の領域について、広島市との役割分担は、市がNPOなどの担い手と担い手一人一人の市民と平和づくり、平和貢献していくのと比べて、県は人材養成で、世界に貢献していくのだろうと思う。
- ・ お金儲けというと語弊があるが、イギリスの大学は、都市に大学が来ると、留学生が増え、消費購買力、雇用がどれぐらい増えるかをアピールしている。そういう意味では、広島も、平和について、人材養成、大学研究機関等での雇用や、活性化の一角を担うことも考えられるのかと思う。

(委員)

- ・ 広島は小さい頃から平和教育が当たり前のようにあり、小中高でそういう教育を当たり前を受けていて県外の方からすればそれだけでもそれなりの時間を割いてすごい教育だと思う。それが卒業して終わりではなく、大人になっても考える機会があり、触れる機会があって、見る機会があって、平和をキーワードに、平和とセットで何かを考えることは、広島らしさが一番出るのではないかと思う。
- ・ (資料1について) 暮らしの意見と企業や産業に関する意見が混ざって記載されているが、そこをわけると見やすいと感じる。17の領域のままにするのであれば、暮らしのことなのか、

企業にこうしてほしいことなのか、分けて表現できると伝わりやすくなるのではないか。

(委員)

- ・ ひろしまビジョンをどう社会実装していくのが重要であるが、社会実装に向けてのスケジュールはあるのか。例えば、熊本市では、総合計画を策定した後に、現代美術館で総合計画展を開催し、市民が自分達で、自由にイメージできるように、デザインワークショップをやったりしている。主体である県民に当事者意識を持っていただきけるような工夫が必要である。

(事務局)

- ・ パブリックコメントを実施し、県民の意見を計画に反映させる予定である。まだ具体的なことは決まっていないが、ビジョン策定後には、普及啓発として、各市町、県民の皆様にはビジョンの内容をお知らせし、いろいろ考えていただくことなどが考えられる。

(委員)

- ・ パブリックコメントは意見が3桁あればすごいというレベルだと思うが、県民の数からすると、ボリュームとしては小さい。どんなキャンペーンをするかによって社会実装の形は変わってくると思うので、検討していただきたい。

(委員)

- ・ 各小中学校でわかりやすく説明することで、広島県がどういう考え方をしているかを伝えることができるのではないか。平和についても、小中学校で勉強はしているが、意識してるかどうか。戦争が身近ではないという認識をされつつあると感じているので、ビジョンの見直しも含めて、小学校、中学校、義務教育の中の教育で、授業や道徳の一環で、触れて話していける環境を作る必要があるのではないか。県外から移住で来た人などに、平和について知る環境を作ることや、子供たちにも教えることができれば、広島県の方向性として、今後未来を見据えていく上では非常に良いものになるのではないか。

(委員)

- ・ 平和を打ち出して、広島のアキにすることは良いことだと思っている。ただ、県民に対して打ち出す際に、若い世代の平和アレルギーにも考慮しながら、平和というキーワードを出しつつ、今の時代に合った平和の言葉を使い、中身についても、どういうものをイメージしているのかもセットで打ち出していく必要がある。せっかく良いものを打ち出しても、県のビジョンが、結局、核抑止の話を押しかけてくるというイメージに捉えられてしまうと、若者との分断が生まれる可能性がある。そこを少し危惧している。平和の捉え方を、核や戦争というのはもちろんあるが、人々の間での分断、差別感情など、そういったところまで含めて、広島における平和を考えていくと広がりが出てくるのではないかと感じる。

(委員)

- ・ ビジョンの基本理念と目指す姿を見たときに、これまで議論してきたことは言葉としてはすごく盛り込まれていると改めて感じた。
- ・ 目指す姿の中に、安心と誇りと挑戦が全部盛り込まれた形で表現されてしまっている。例えば、安心はどちらかというとベースのインフラであるので、そこに広島らしさを盛り込むこと

は極めて難しいと思う。誇りは、広島ならではの誇りは何なのか、市民目線から、自分が生まれてから死ぬまでの広島らしい誇りがキーとしてそこに表すべきであるが、どの県のビジョンも似てしまうというところがあるので、あえて、できていないところにも着目して、他県でもどこでもできていないことではあるが、ここに誇りを持てるように挑戦するというのを、新たに大々的に盛り込むことによって、それが県全体の施策の横串のキーワードとなり得るのではないかと思っている。

- ・ 基本理念では全部を表現しなければならないと思うので、安心も、何もかも全部盛り込んで、広島県が県民の皆様に提供するもの全部記載しているのだと思う。目指す姿も、広島県が提供するもの全部書いている。結果的に両方とも抽象的な表現になってしまっている。総論と各論をつなぐところにインパクトがないように感じる。安心・誇り・挑戦の3つを守るのであれば、安心と誇りは守りと攻めであるが、両方を同じベース記載すると薄まってしまうので、どう記載を分けるのかを工夫する必要があるのではないか。
- ・ 広島にいなければ感じられない、喜びが何なのか。人生の中で語られるページが1枚あるとすごくわかりやすいのではないか。

(委員)

- ・ 県民の皆様が関心を持てる、イメージができる環境を、事例集みたいな別冊にすることも1つのアイデアである。イメージがしにくい、想像できないことが一番の壁になっていて、情報発言ができない、行動ができない、そうなると、広島県に住んでるけど結局普通に住んでるだけで終わってしまうことになる。県民の皆様にイメージしてもらい、わかってもらえる環境を作っていくことが重要だと思う。
- ・ カーボンニュートラルについて、認識が非常に薄いと感じている。2030年に二酸化炭素の排出量をゼロにするという流れの中で、広島県がいち早く取り組んでいく必要があるのではないか。カーボンニュートラルに取り組んでいる企業に対して、広島県から良い取組をしていると、表彰されるなど、目に見える活動として、企業も認められることでより活動が加速されると思う。

(委員)

- ・ 基本理念の次のページに1つの共通のフレームワークあれば、例えば、世界をリードする広島があって、平和で世界をリードするなど。平和にしても環境にしてもグローバルな問題で、私は世界の平和を広島から守っていきますとか、私は世界の自然を広島から守っていきますとか、広島県民宣言のような形で、生まれてから死ぬまでは難しいかもしれないが、宣言であれば、色がつけられるのではないかと思っている。そこに、安心のベースとなるインフラまで入れるとぼやけてしまうので、安心は別で押さえた上で、誇りと挑戦のつながりで表現するなど、色々と考えられるのではないか。

【今後の審議スケジュール】

事務局から、小委員会（フォローアップ）での意見（事務局が骨子案を作成するに当たって、施策の方向等で考慮すべき意見）を審議会で審議し、審議会も踏まえて、今後骨子案に反映することについて説明

（委員長）

- ・ 事務局が、本日いただき意見も踏まえて、審議会で審議する資料を作成し、審議会で審議し、審議会も踏まえて、半年間かけて、ビジョンの見直し等の作業を行っていく。
- ・ 適宜、委員の皆様にご意見いただくことがあると思うが御協力をお願いしたい。
- ・ 審議会で審議する資料に本日いただいた意見も反映するが、委員長預かりで、事務局と調整しながら進めていく。

7 会議の資料名一覧

- 資料 1 施策領域別フォローアップの主な意見まとめ
- 資料 2 今後の審議スケジュール
- 参考資料 1 これまでの主な取組と成果
- 参考資料 2 社会経済情勢の変化